

2022年7月9日

2022年 WMU Grand Reunion 「Kalamazoo, WMU と日本」

by 北川幸彦（1962年慶応大学留学生）

北川と申します。5分のお時間を頂戴していますが、長くなるかも知れませんので、皆様、座ってお聞き頂ければ幸いです。

先ずは、Dr.Zagalo-Melo、素晴らしいビデオメッセージをありがとうございました。

メッセージにもありました様に、1962年、慶応大学から66名の学生がWMUのSummer Sessionに参加しIntroduction to American Civilizationを始めとする多くの講座を受講しました。私はその中の一人で25歳の、大学院で化学を専攻する学生でした。この年から今年で丁度60年になります。そこで、WMUを中心にKalamazooと日本、延いては日米の交流史などを少々お話致します。

1903年、WMUが創立されました。ライト兄弟が史上初めて動力飛行機で飛んだ年です。WMUの創立により、カラマズーには二つの特色ある教育機関が揃ったこととなります。そのうちの一つ、カラマズー・カレッジは1833年に創立されました。そのカラマズー・カレッジに若き永井荷風が1904年から1905年に掛けて留学在籍し、フランス語を履修しております。そしてこの二年間に日露戦争がありました。彼はワシントンの日本公使館（1906年まで大使館がなかった）でポーツマス条約交渉の間、熱心に事務仕事に励みました。日露戦争の調停者は時の米国大統領セオドア・ルーズベ

ルトで、日本は満州（中国東北部）の幾つかの権利を得ております。

この度の元首相の不幸な出来事で思い出されますのが、1909年10月26日、長く首相を務めた伊藤博文が、満州のハルピン駅頭にてピストルで狙撃された事件です。偶々居合わせた33歳の日本人医師が中心となって手当を尽くしましたが、甲斐なく30分後に亡くなりました。同年12月18日にKnox 国務長官が一つの提案をします。それは「満州のロシア・日本の経営する鉄道等を日・米・露・英・独・仏の六ヶ国のシンジケートで買収し、清（中国）と共に経営する」と云うものでした。極めて斬新な提案でしたが、日露は一緒になって反対しこの案は実現しませんでした。伊藤博文が存命でしたらどう応えた事でしょう。もしこのKnox 提案を受け入れていたらその後1941年に勃発した「あの戦争」は起こらなかった、との識者の見解もあります。

話はそれでしたが、1945年、戦争終結と共に日米の交流は再開されます。そして1952年にフルブライト交流計画が発足します。これに基づく第一回の米国からの日本留学生にNorman F. Carver という建築家でしたが、彼はカラマズー在で日本建築の素晴らしさを自らの建築に取り入れた人です。62年留学の日本留学生とも大いに親交のあった方でした。更に申し上げますと、本日のGrand Reunion にご出席の当会名誉理事、田中榮治さんもフルブライト留学生として65年にWMUに留学されておられます。フルブライト交流計画は本年70周年を迎え、記念式典が7月1日東京で開催されました。

そして 1962 年、ケネディ大統領の時代に WMU と慶応大学、Kalamazoo と日本の交流がスタートしました。Summer Session は当時の Miller 学長と Samuel Clark 教授以下による非常に工夫されたプランに従って行われました。我々は WMU の皆様のご努力に非常に感謝しています。同時に Kalamazoo 市民も我々を歓迎してくれました。全員が、単独もしくは複数でホームステイに招かれ、アメリカの家庭生活を体験しました。貴重な日々でした。ホームステイで仲良くなり、その後永年に亘る友人となった方々も数多くおります。

そしてこの交流を期に現在に至るまで多くの成果を挙げております。一方、ビデオにてお話のありました慶応大学の村上由希子さんと立教女学院の大塚雅美さんが、時は離れておりますが、交通事故により現地で亡くなられております。

悲しい思い出ですが、村上由希子さんの死を惜しみ、WMU に村上 scholarship 制度ができ、爾来 60 名もの慶大留学生を WMU で受け入れて頂いております。慶應大学への WMU 留学生受け入れ制度は 10 年後に発足、以降 reciprocal な制度となりました。

1962 年以降、多くの Kalamazoo の方々が交流に貢献されていますが、第一は日系人の Minoru Mochizuki さんご一家です。当時 36 歳で WMU の教会を司られていました。Mochizuki 家は一家を挙げての歓迎で、ご自宅は我々のサロンとなりました。

次は、先ほど申しあげましたアメリカ人 Norman F. Carver さんご夫妻です。1962 年同氏は慶応大学より留学の女子学生全員（9 名）を日本庭園のあるご自宅に招待されました。彼はアメリカの大学で建築を学び、更に留学で日本建築を研究し、「日本建築の型と空間」(Form & Space in Japanese Architecture) という有名な写真集を出しています。また、日本建築の造形を基に Kalamazoo に日本式構造の住宅群を建築されました。現在も多くのご家族が住まわれております。

同じ 1962 年、24 歳の堀江謙一さんが、日本からサンフランシスコまで小さなヨットで単独航海を史上初めて成功させました。最近のニュースでご存じかと思いますが、奇しくも 60 年を経た今年、逆のコースで再び太平洋横断を成功させています。

1963 年、Kalamazoo 市と、富士山の麓、沼津市 (Numazoo) が姉妹都市となりました。本日もこの会場に、姉妹都市提携により WMU 留学を果たされた、本会の理事である乾精治さんや高村憲子さんがご出席されています。2013 年には沼津市で姉妹都市 50 周年記念式典が催され、Kalamazoo 市からも多くの方々が式典に参加されました。何といっても最大の功労者で、一番長く日本人留学生のお世話をされたのは、曾我道敏・亮子ご夫妻です。曾我先生は 1968 年に WMU に赴任され、長く物理学教授としてその任に当たられましたが、赴任直後から事あるごとに WMU の日米交流に心を砕かれ、機会あればお宅のホームパーティーに日本人留学生を招かれ、当時の数少ない留学生にとってはオアシスの様な、駆け込み寺の様な、かけがいのない場所でした。

そしてこの曽我先生ご家族との交流の場が現在の Kalamazoo 会の源となりました。

Kalamazoo 会の非公式なスタートは 1980 年代の初頭ですが、この会は 2000 年代に Kalamazoo 在経験のある方ならどなたでも会員になれる開かれた日米‘草の根交流‘の会として正式に発足。WMU に留学生を送る多くの日本の大学との交換留学制度の拡充を図り、学長他 WMU 関係者の来日時の歓迎会、更には日本関係の学際的事業である WMU Soga Japan Center の設立推進などに寄与してきました。

さて、1960 年以降の日米に戻りましょう。

日本では 60 年の日米安全保障条約改定の騒動があり、そして米国ではキューバ危機を素晴らしい指導力で阻止、解決したケネディ大統領の時代でしたが、63 年 11 月 22 日、46 歳の若き大統領の暗殺に世界が悲しみました。そして 60 年代後半、米国は Vietnam 戦争へ、日本では全共闘活動の先鋭化と、日米にとって大変な時代でした。そんな中、米国への日本人留学生は当初限られた人数でしたが、その後増加に転じました。1990 年から 2010 年までは 2 万人以上で、ピーク時は 4 万人を越えました。

WMU においても日本人留学生が飛躍的に増加した時代でした。

Kalamazoo 関連の人達に話を戻しますと、かの NY Yankees の Derek Jeter 遊撃手は Kalamazoo 育ちです。同年生まれの松井秀喜選手は 2003～2009 年の間、同一チームで活躍しました。二人の Chemistry は良く合った様ですが、ひょっとしたらこれは、

Jeter 選手が Kalamazoo での日本のよき評判を聞き及んでいた為かも知れません。

現在、大谷翔平選手が日米のファンから注目されています。投打の活躍はかのベーブルースの再来と言われています。尤も、ベーブルースは野球の「神様」、翔平君は日本「人」ですから、対比は難しい処。

2000 年代に入り大きく貢献された人物は、WMU の初代 Soga Japan Center 所長の Stephen Covell 教授と Jeffrey Angles 教授です。Covell 教授は日本の二大仏教の一つの宗派で修業を積まれ“僧侶 (monk)”の資格を取った宗教学者です。彼はたびたび WMU の学生の日本研修旅行を実行されてきました。その旅行の最後には必ず Kalamazoo 会による交歓会が組まれ、私たちは彼ら彼女らの宗教体験を楽しく聞かせてもらったものです。コロナが終わり次第、また実行されることでしょう。

Angles 教授は高校生の時に日本に留学、その後も何回となく来日し、日本文学の研究を続けられています。1952 年に永井荷風が日本人最高の栄誉である文化勲章を受賞しました。その対象は彼の文学全般ですが、中には Kalamazoo での生活が描かれている「アメリカ物語」や「西遊日誌抄」もあります。Angles 教授は 2006 年に「永井荷風と Kalamazoo とその時代」という論文を三田文学第 84 号に発表しましたが、この論文は約 100 年前の Kalamazoo Gazette 紙を丹念に調査、分析することにより成立しております。その結果、彼は従来の論述にはみられない「ユニークな荷風」を見出しま

した。その後、2017年には日本語で綴った詩集「私の日付変更線」で2016年度第68回読売文学賞詩歌俳句賞を受賞されました。この賞は外国人には非常にハードルが高く、如何に彼の作品が評価されているかが分かります。日本の講演会などでの再会が期待されます。

2009年10月、伊藤博文が暗殺されてから100年の年に郷里の光市に高さ2.3mの石碑が建立されました。彼の詠んだ詩の一節が刻まれています。其の字句を揮毫したのは昨日暗殺された安倍晋三元首相でした。二人は同郷でした。安倍氏は伊藤博文同様首相を大変長く務めました。両氏共に「アメリカとの関係が最も重要である」との認識の下、日米友好に努めました。安倍元首相は、中露も含む世界の国々の元首に評価され、大変惜しまれておりますが、特にトランプ元大統領とのChemistryが素晴らしかったと高く評価されています。

ここで、WMUとKalamazoo会の交流の為に忘れてはならない日本側の方々を紹介します。

藤島俊一さん：留学後KalamazooとWMUに関係する方々に丹念に呼びかけ、交流を促進し、現在のKalamazoo会の基礎を創り上げました。会のエンターテイナーとしても大活躍されています。

上谷達也さん：初代 Kalamazoo 会会長であり、2003 年の WMU 創立 100 周年記念式典に、日本人留学経験者とその家族の団長として約 20 名からなる日本人団を取り纏め出席、会を代表し WMU への寄付を手渡すなど、その交流を成功させました。また彼のお陰で団の全員が WMU Broncos の American Football Game を観戦することが出来ました。

高村憲子さん：Kalamazoo 会及び Soga Japan Center の為に物心両面で何十年にも亘り多大な貢献をされて来ました。

大嶋英二さん：Kalamazoo 会二代目会長として、Kalamazoo と WMU に関係する人が誰でも参加できるオープンな Kalamazoo 会の概念に則り会則を作りメンバーシップを充実、Soga Japan Center 設立の為に過去最大の寄付活動に尽力されました。

阿部仁さん：長年の WMU での経験を活かし、現会長として留学セミナー開催等若手会員層の拡大などに多大な努力・貢献をされています。

この 5 名の皆様は、全員本日まで出席なさっています。

更には、60 年間に亘り留学生の受け入れ・送り出し手続きをされてきた WMU 及び日本の各大学の方々のご努力・ご貢献も忘れられません。未だ未だ多く草の根交流に貢献された方々がいらっしゃいますが、きりがありませんので、本日は上記 5 名（及び先にお話した田中さん、乾さん）のみとさせて頂きました。今や、WMU との交流は日本の全国の大学に広まりつつあります。今後の更なる拡充が大いに期待されます。



世界は現在大変な時を迎えています。ウクライナはどうなるのか、キューバ危機の時と同じ核戦争の勃発が心配されています。予断を許しません。

本日の 12 時の TV でバイデン大統領がワシントンの日本大使公邸を訪れ、花輪を捧げ記帳されたことが報じられました。また、ブリンケン国務長官の来日も計画されているとのこと。1909 年の Knox 国務長官の好意溢れる提案が思い出されます。

現在日米関係は極めて良好です。日米の相互理解の一端を、草の根交流の Kalamazoo 会の様な組織が下支えしているから、とも云えるのではないのでしょうか。

以上が“日米と化学”のふたつの Chemistry を少々学んだ私の駆け足の History です。

尚、蛇足ながら伊藤博文の死に立ち会った 33 歳の医師は、私の祖母の兄にあたることを申し添えます。

乾杯の発声をとという事でございますが、元首相のご不幸があった直後ですので、ご出席の皆様と Kalamazoo 会の益々のご発展、そして、なにより一層の日米友好を祈念して、静かに杯をあげる事と致しましょう。

以上